

美術館評価とは

美術館が当該美術館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき美術館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めるものです。

栃木県立美術館では、平成 28（2016）年度から実施しています。

評価の方法

当館による自己評価と栃木県立美術館評議員会による外部評価があります。

自己評価は、目標の達成状況について定量的及び定性的評価を行います。

外部評価は、自己評価結果の妥当性を検証し、今後の美術館運営のあり方について助言を行うものです。

1 定量的評価

達成度 A : 100%以上 B : 100%未満～70%以上 C : 70%未満

項目	評価点	目標値 a	達成度 (b/a) %	評価	備考
		達成値 b			
1 調査研究関係	① 研究公開と社会貢献回数	40	122.5%	A	
		49			
2 展覧会関係	② 企画展開催回数	4	100.0%	A	
		4			
	③ 企画展関連イベント回数	20	70.0%	B	
		14			
	④ 常設展展示替回数	4	100.0%	A	
4					
⑤ アートリンク実施回数	2	100.0%	A		
	2				
3 普及教育関係	⑥ アートクルーズ来館学校数	20	15.0%	C	
		3			
	⑦ イベント開催回数	12	83.3%	B	毎月1回以上
		10			
	⑧ 県教委・あーとネット等教育関係団体との会議	3	100.0%	A	
		3			
⑨ 社会体験学習等回数	5	100.0%	A		
	5				
⑩ 学芸員実習回数	1	100.0%	A		
	1				
⑪ 社会教育実習回数	4	100.0%	A		
	4				
4 広報関係	⑫ ホームページアクセス件数	500,000	93.7%	B	
		468,721			
⑬ SNSによる情報提供回数	150	318.7%	A	毎週1回以上	
	478				
5 入館者数関係	⑭ 5カ年間の入館者数	248,000	134.7%	A	
(R3の入館者数)	49,600	134.7%	A		
	66,817				
6 様々な主体との連携	⑮ 友の会・ショップとの連絡会議回数	4	175.0%	A	
		7			
⑯ レストラン企画展関連ランチ提供回数	5	100.0%	A		
	5				
7 新たな取組	⑰ 新規に取り組んだ事業数	1	200.0%	A	
		2			

2 定性的評価

達成度 A : 91%以上 B : 91%未満～70%以上 C : 70%未満

評価項目 (チェック項目数)	チェック項目数×3 (a)	達成度 (b/a) %	評価	備考
	◎×3+○×2+△×1 (b)			
1 館運営全般 (9)	27	100.0%	A	
	27			
2 調査研究関係 (5)	15	100.0%	A	
	15			
3 収集保存関係 (7)	21	85.7%	B	
	18			
4 展覧会関係 (8)	24	91.7%	A	
	22			
5 普及教育関係 (9)	27	85.2%	B	
	23			
6 施設設備管理 (4)	12	91.7%	A	
	11			
7 中核的機能関係 (6)	18	88.9%	B	
	16			
8 広報関係等 (7)	21	95.2%	A	
	20			
9 様々な主体との連携 (8)	24	91.7%	A	
	22			
10 新たな取組 (4)	12	100.0%	A	
	12			

定量的評価

定量的評価は、評価項目ごとに近年の実績の平均的数値等を踏まえて目標値を設定し、目標値に対する当該年度の実績値の割合（達成度）で評価したものである。

A : 達成度 100%以上、B : 達成度 100%未満～70%以上、C : 達成度 70%未満

定性的評価

定性的評価は、評価項目（チェック項目）ごとに館員がその意識や姿勢等を自己評価し、その評価を、担当課長→副館長→館長の順に検討した上で最終評価としたものを点数化し、各項目の満点数に対する当該年度の得点数の割合で評価したものである。

A : 達成度 91%以上、B : 達成度 91%未満～70%以上、C : 達成度 70%未満

〔◎ : 十分達成できた（3点）、○ : 概ね達成できた（2点）、△ : 達成不十分（1点）〕

3 評価結果一覧

区分	A評価	B評価	C評価
定量的評価項目 (17)	13項目	3項目	1項目
定性的評価項目 (10)	7項目	3項目	0項目

4 新たに取り組んだ(改善した)事業等

概 要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民間企業とタイアップした企画展の開催 民間企業（下野新聞社）とタイアップした企画展「名画でたどる西洋絵画 400年―珠玉の東京富士美術館コレクション」を開催した。 ○ オンライン鑑賞教育の実施 展覧会場と教室（小山市立豊田中）をオンラインで結び、遠隔での鑑賞教育を実施した。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民間企業とタイアップした企画展の開催 東京富士美術館が所蔵する 16 世紀後半から 20 世紀までの西洋絵画から厳選した作品約 80 点を展示し、大変多くの入館者（23,694 人）を迎えることができた。 ○ オンライン鑑賞教育の実施 タブレットの画面を通じて生徒と学芸員とが意見交換等を行い、教室に居ながら展覧会場の雰囲気を感じることができたことから、とても好評であった。 コロナ禍に限らず、今後の鑑賞教育の一つの方向性を確認する機会となった。

5 自己評価総括

評 価	<p>(1) 定量的評価</p> <p>◎ 全体の 76%にあたる 13 項目がA評価となったが、「③企画展関連イベント回数」「⑦イベント開催回数」「⑫ホームページアクセス件数」がB評価に、「⑥アートクルーズ来館学校数」がC評価にとどまる結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none">・ B評価の「③企画展関連イベント回数」「⑦イベント開催回数」とC評価の「⑥アートクルーズ来館学校数」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにイベント開催を中止したことや、移動自粛等の影響により、目標値を下回る結果となった。・ B評価の「⑫ホームページアクセス件数」については、昨年度（R2）の 331,973 件を大きく上回る 468,721 件となったものの、目標件数には至らなかった。・ 今後も、感染対策等に留意しつつ、適切な展覧会運営を図っていきたい。 <p>(2) 定性的評価</p> <p>◎ 全体の 70%にあたる 7 項目がA評価となり、「3 収集保存関係」「5 普及教育関係」「7 中核的機能関係」がB評価となった。</p> <ul style="list-style-type: none">・ B評価の「5 普及教育関係」については、『創作工房アトラウンジさくら塾』などのイベントは大変好評であるほか、新たに『オンライン鑑賞教育』を実施するなど学校教育との連携にも努めているが、コロナ禍の影響もあり「アートクルーズ」の参加校が少ない状況であった。・ 「7 中核的機能関係」についても、コロナ禍により、他館との交流や各種研究会等への参加が制限されたことによりB評価となっている。 <p>【評価総括】</p> <p>令和3（2021）年度より新たな中期計画をスタートさせ、それぞれ目標値達成に向けて取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、アートクルーズ来館学校数は大きく目標を下回ってしまった。</p> <p>今後とも、学校教育との連携など対応の検討を進めるべき課題もあるが、コロナ禍の制約の中で意欲的に事業に取り組み、幅広い美術館ファンの獲得に向けて努力した。</p> <p>また、老朽化した施設・設備の計画的な改修など美術館のみでは対応できない大きな課題については、主管課である県民文化課等と協議・連携しながら検討及び対応を進めている。</p> <p>これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。</p>
--------	--

課題	<p>【今後の主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 開館 50 周年記念事業開催に向けた取組 ◆ 学校との連携の強化 ◆ 老朽化した施設・設備等の計画的整備
対応の方向	<p>【対応の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開館 50 周年を迎えられたことに対する県民への感謝の意を込めて、質の高い、そして多くの県民に感動を与えることができる、親しみやすい記念展の企画立案に努める。 ■ 市町や学校教員へ美術館事業を積極的に情報提供し、具体的な連携策について検討を進める。 ■ 老朽化した施設・設備を適時・適切に改修し、美術館としての機能維持に努める。

6 外部評価

意見等	<p>令和 3（2021）年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。</p> <p>① 美術品の収集について 館蔵品については、新陳代謝がないと新鮮味が薄れてしまうので、収集方針に合致した<u>収蔵に相応しい作品があれば、積極的に収集し、その充実に努めてほしい。</u></p> <p>② オンライン鑑賞教育の実施について コロナ禍における移動制限や教員数不足などで従前のような鑑賞教育の実施が難しい中、<u>学校の教室と美術館とを結んだオンライン鑑賞教育は大変好評であることから、事前準備のデジタル化等による省力化を図りながら、多くの学校に普及させてほしい。</u></p> <p>③ SNS 等による情報発信について HP や SNS を用いた情報発信について、県民に美術館の魅力をわかりやすく伝えるため、<u>デジタル技術を駆使してより積極的な発信に努めてほしい。</u></p>
-----	---

定性的評価項目チェックリスト

◎：十分、○：概ねできた、△：不十分

区分	チェック項目		達成度
1 館運営全般	1	館と本庁主管課との連絡調整を十分に行ったか	◎
	2	定例の課長会議及び学芸会議は開催できたか	◎
	3	突発的な事案に関して、課長会議等は十分に開催できたか	◎
	4	館長、課長等と館員のコミュニケーションは良好だったか	◎
	5	本庁主管課及び全館員が承知する中期・年度計画は策定したか	◎
	6	自己評価は実施したか	◎
	7	外部評価は実施したか	◎
	8	栃木県立美術館評議員会の意見等は全館員に周知したか	◎
	9	年報やホームページ等で館の運営状況を公表したか	◎
2 調査研究	1	調査研究内容について学芸課内で情報共有しているか	◎
	2	調査研究予算の獲得について努力をしたか	◎
	3	各学芸員は幅広く見聞を広めているか	◎
	4	県内の現役作家等についての研究にも積極的に対応したか	◎
	5	我が国及び世界の現在の美術状況についても研究しているか	◎
3 収集保存	1	収集方針に沿った収集を行ったか	○
	2	作品の保存状況等について定期的に点検したか	○
	3	収蔵庫等の温湿度管理は適正に行ったか	◎
	4	収集作品の修復は計画的に行ったか	○
	5	収集作品の他館及び県内市町への貸出に前向きに対応したか	◎
	6	寄贈者に対して適切な対応を実践したか	◎
	7	収集に関する情報収集は定期的に行っているか	◎
4 展覧会	1	企画展・常設展は、計画に近い内容で開催できたか	◎
	2	出品リストは作成・配付したか	◎
	3	音声ガイドは順調に作成・貸出しできたか	△
	4	図録又は解説のための小冊子等を作成したか	◎
	5	展示状況について定期的に点検したか	◎
	6	入館者の鑑賞状況等をチェックし交流等を図ったか	◎
	7	入館者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	◎
	8	企画展の自己評価を行い、検証をしたか	◎
5 普及教育	1	イベントの定期的な開催について努力したか	◎
	2	参加者数は満足のいくものだったか	○
	3	参加者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	◎
	4	各事業では講師等の協力を十分に得ることができたか	◎
	5	団体利用の際にオリエンテーションの実施等に積極的に努めたか	◎

5 普及教育	6	学校との連携をより深めることができたか	○
	7	学校の教員向けのイベントは開催したか	○
	8	障害者の美術鑑賞の研究及び情報収集に努めたか	○
	9	各事業の振り返りを実施したか	◎
6 施設管理	1	施設設備の危険箇所等の有無について定期的なチェックはしたか	◎
	2	館を挙げての防災訓練を実施したか	◎
	3	施設面での国際化への対応について検討しているか	○
	4	不慮の事故等に備えての保険には通年で加入したか	◎
7 中核的機能	1	県内の他の美術館・博物館等との積極的な交流を図ったか	○
	2	市町美術館等の求めに応じた、適切で親身な助言等はできたか	◎
	3	県内外の学会、研究会、委員会等に積極的に貢献したか	○
	4	栃木県博物館協会の事業等に積極的に貢献したか	◎
	5	各種団体等の協力要請に、前向きな対応姿勢を示せたか	◎
	6	学芸員実習生の積極的な受入と適切な指導は図れたか	◎
8 広報関係等	1	企画展毎の広報会議の早期開催について努力したか	◎
	2	広報体制を確立し、各自の役割分担が明確になっているか	◎
	3	ホームページ上で、必要に応じたタイムリーな情報提供ができたか	◎
	4	フェイスブック、ツイッターの活用は十分だったか	◎
	5	広報対象毎に戦略的に効果的な広報を行ったか	○
	6	広報は衆目を集めるような魅力的なものにする配慮をしたか	◎
	7	報道関係者との交流には積極的に努めたか	◎
9 様々な主体との連携	1	友の会への支援（会員増への協力など）を常に意識していたか	◎
	2	友の会とのコミュニケーションに努めたか	◎
	3	ショップの魅力向上策について検討したか	◎
	4	ショップ運営に関して進んで協力したか	◎
	5	レストランの利用促進に協力したか	◎
	6	レストランの企画展関連メニュー等に関してともに検討したか	◎
	7	ボランティアの活用は順調に推移したか	○
	8	ボランティアとの関係性の向上のための積極的な交流に努めたか	○
10 新たな取組	1	新型コロナウイルス感染症対策を徹底したか	◎
	2	50周年に向け、積極的に取り組んだか	◎
	3	民間企業とのタイアップによる企画展の開催手法を検討したか	◎
	4	館としての新たな取組の模索を常に意識していたか	◎